

## チョガ・ザンビール：古代エラム文明の栄光



JCCME テヘラン事務所 職員 アッバースイ・ミトラ

### はじめに

イラン南西部フーゼスターン州の砂漠に聳え立つチョガ・ザンビール遺跡は、古代エラム文明の栄光を今に伝える貴重な遺跡です。紀元前13世紀に建設されたこの巨大なジググラト<sup>1</sup>は、高度な建築技術と宗教的意味合いにおいて、古代世界の驚異の一つとして認識されています。本稿では、チョガ・ザンビールの歴史、建築、宗教的意義、そして現代における価値について考えていきます。



(チョガ・ザンビール遺跡、右に夕日が見える風景)

### 場所とアクセス

この建造物は、古代都市シュシュタルの西35km、古代都市シュシュの南東40km に位置しており、デズ川（これら2つの都市の境界）の西に位置しているため、都市の一部と考えられています。



<https://www.google.com/maps/place/@32.009054,48.521568,15z/data=!3m2!1e3!4b0!4m2!3m1!1s0x0:0x1eddde32c7777f7c?hl=en&entry=ttu>

注釈1：ジググラトは、古代メソポタミアにおいて、日乾煉瓦を用い数階層に組み上げて建てられた巨大な聖塔で、「高い所」を意味する。

## チョガ・ザンビールの歴史

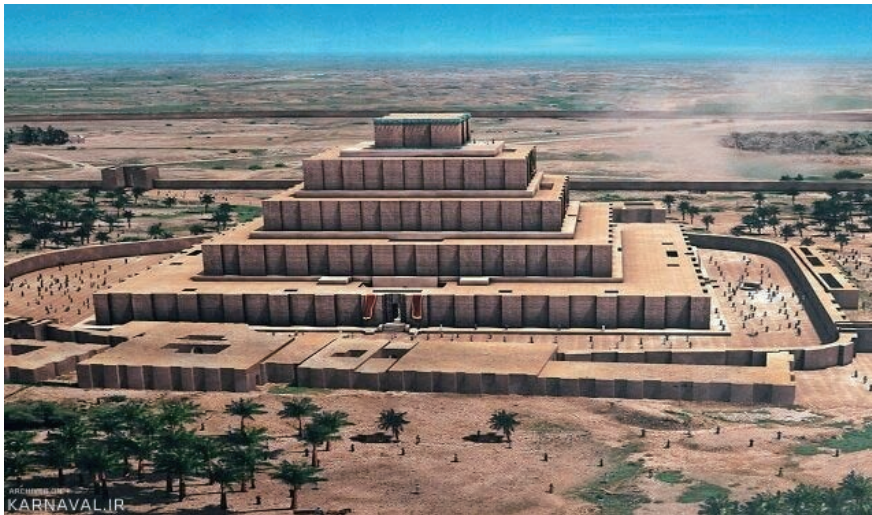
チョガ・ザンビールは現地の言葉で「かごの形をした丘」を意味し、シュシュの南東12kmに位置する100ha（ヘクタール）の古代遺跡です。ジググラトは、神々への崇拝と王権の正当性を象徴する重要な建造物でした。エラム文明は短期間で繁栄を極めました。紀元前12世紀にアッシリア王アッシュールバニパルによって征服され、破壊されました。その後、長い間砂漠に埋もれていましたが、1930年代にフランスの考古学者ロマン・ギルシュマンによって発掘され、1979年に初の記念碑としてユネスコの世界遺産に登録されました。多くの著名な考古学者たちは、チョガ・ザンビールがイラン最古の既知の宗教建築物だと考えています。

## 素晴らしいジググラト建築の特徴

- チョガ・ザンビールのジググラトは粘土とレンガでできており、12階建て。
- ジググラトの当初の高さは約52mで、現在は約25mが残っている。
- ジググラトの各階の面積はその下の階よりも小さく、ピラミッド状になっている。
- ジググラトの建設には高度な工学技術が使用されており、エラム人の建築家の知識と技術が示されている。
- たとえば、ジググラトへの水の浸透を防ぐために、レンガの間にアスファルトの層が使用されている。



(チョガ・ザンビール寺院 建物の全景)



(チョガ・ザンビールの復元された画像 (出所: KARNAVAL.IR))

### チョガ・ザンビールの内部の紹介

チョガ・ザンビール寺院は「ドゥラヴァンタシュ」と呼ばれる市内中心部に位置し、長さとは幅は約1,000m × 1,300m のエリアをカバーしており、以下の3つの土塀で構成されています。第一の囲いには小さな宮殿と寺院があり、第二の囲いには王家の地下墓と王宮、第三の囲いには浄水場があります。

また、次のようなエラムの神々と女神を祀る他の礼拝所がチョガ・ザンビールに建てられました。

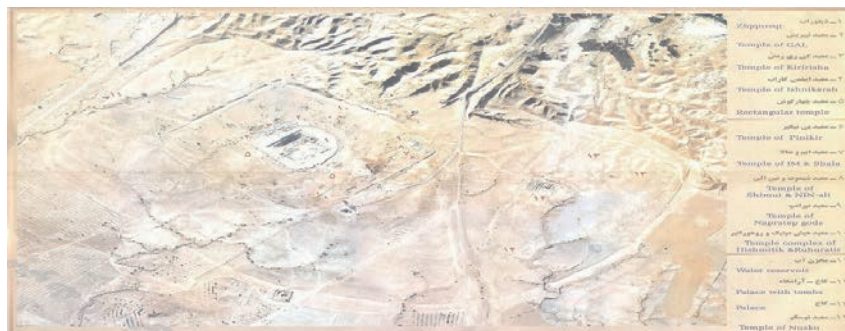
- ・ヌスク (火の神)
- ・ピニキル (神々の祖母)
- ・アダド (空気の神)
- ・ニン・アリ (空気神の妻)
- ・シムト (エラムの神)
- ・マンザット (エラム神の妻)
- ・ネプラテプ (生命維持の女神)
- ・ルフラティル (アンザンの神)
- ・ヒシュミティク (アンザン神の妻)
- ・ガル (エラムの大神)
- ・イシュニ・カラブ (誓いの女神) と、第二の壁の西門と南東門の隣に位置する他の2つの未知の寺院。

ジググラトはもともと5階建てで、現在はそのうちの2階近くが残っています。チョガ・ザンビールのジググラトの側面は105m × 105m です。チョガ・ザンビールのジググラト

は、地面から互いに平行に建てられました。1階と5階は空洞で部屋の形をした拡張部があり、残りの床は固体粘土で満たされていました。壁の内側は粘土で作られ、外側はレンガで作られています。ジググラトで使用されているレンガには、釉薬がかけられているものもあれば、鋌状の装飾が施されているものもあり、これらは世界最古のタイルのひとつです。ジググラトの周囲には、建設者の名前と建設の目的を示す線が書かれたエラム人の楔形レンガがあります。

北西と南西の正面には2つの円形の台が見られ、その存在は、祭壇、像が安置されている場所であった、日時計であった、予言や占星術の場所であったなど、さまざまな見解がなされています。

チョガ・ザンビール浄水場は本寺院の西正面にあります。この浄水場はコンテナを使用して建設されたため、世界最古の浄水場と考えられています。発掘者のロマン・ギリシュマンは、処理場で使用される水はカルケ川からの運河によって45km離れたところから供給されていたと考えました。一方、寺院から3km離れたところにデズ川がありますが、デズ川の水を使用しなかったのは、チョガ・ザンビールの地域とデズ川の水位とで高低差があったためと考えられています。



(チョガ・ザンビールからの航空写真と各部のガイド -Wikipedia より)



(世界最古の物理的水処理施設 fsst.co サイトより)

## 現在の問題

チョガ・ザンビールは、その偉大な歴史的および文化的価値があるにもかかわらず、2つの面で複数の問題に直面しています。

### 1. 自然による問題：

浸食：土壌浸食はチョガ・ザンビールが直面する最大の問題の1つです。時間の経過とともに、風と雨により、ジググラトやその地域の他の建物のレンガや粘土が破壊され、浸食されていきます。

洪水：季節的な洪水も当地域に被害を与えます。2018年、フーゼスターン州の大規模な洪水により、チョガ・ザンビール地域の一部が破壊されました。

気温：フーゼスターンの激しく耐え難い暑さは、当地の歴史的建造物にも被害を与えます。空気の熱によりレンガや粘土の水分が蒸発し、ひび割れや破壊につながる恐れがあります。

### 2. 人間による問題：

不正採掘：不正採掘はチョガ・ザンビールにとって最大の脅威の1つです。過去数年間、この地域では多くの無許可による発掘が行われ、地域の一部が破壊され、歴史的建造物の略奪が行われてきました。

都市開発：シュシュやチョガ・ザンビール周辺の他の都市の都市開発は、チョガ・ザンビールの古代遺跡に損害を与える恐れがあり、チョガ・ザンビール地域で新たに無許可に建てられる建築物は、その地域の歴史的建造物だけでなく、その地域の景観も損ないます。

資金不足：資金不足はチョガ・ザンビールを維持する上での主要な問題の1つです。チョガ・ザンビールの歴史的建造物の修復と再建のための政府資金は十分ではありません。

## 宗教的意義

ジググラトは、神々が地上に降り立つための階段と考えられていました。王は、ジググラトの頂上で行われる儀式を通して、神々と交流し、王権の正当性を確立しました。チョガ・ザンビールからは、多くの宗教的な遺物が出土しています。神像、祭壇、楔形文字の文書などが、当時の宗教信仰を理解する上で貴重な資料となっています。

## 現代における価値

チョガ・ザンビールは、古代エラム文明の栄光を今に伝える貴重な遺跡であり、高度な建築技術、宗教的意味合い、そして出土遺物は、古代エラム人の文化と社会を理解する上で重要な役割を果たしています。

## 結論

チョガ・ザンビールは、古代エラム文明の文化、宗教、建築を理解する上で不可欠な遺跡であり、高度な建築技術、宗教的意味合い、そして現代における価値は、世界遺産に登録されている理由の一つです。今後もチョガ・ザンビールの研究と保護が進むことで、古代エラム文明に対する理解が深まっていくことを期待しています。



(チョガ・ザンビール遺跡附属回転祭壇（礼拝場）と筆者)

出所の記載がない写真はすべて著者撮影